

政経～この特殊な科目の教え方

代々木ゼミナール公民講師

蔭山 克秀

政経は、誰もが将来必要とする社会常識を教えてくれる大切な科目です。それなのに教育の場においては、歴史科目よりも時間が少なく、何となく扱いも軽い。でも私達教師はそんな現実、最初からわかった上で教壇に立っているんですから、文句を言わずその中でやれることをやっていこうじゃありませんか。工夫次第で政経は、生徒にとって楽しみの場に早変わりします。頑張ってください。

1. よくある指導ミス

私は代々木ゼミナールの講師になって、20年近くになります。その間、毎日6時間ぐらい政経ばかり教えています。でもなくならないんですよ、ミスが。ほんと、自分の進歩のなさに呆れてしまいます。

よくやるミスは2つあります。まずはムキになって難しいことを教えようとして自爆するパターン。こういう時は大概、その内容を自分自身も理解できてないか、あるいはただ単に、自分をカッコよく見せたいだけのことが多いようです（お恥ずかしい…）。でもそういうカッコつけの授業って、できない子はだませても、できる子には100%見透かされちゃいます。だから大事なことは、まずムキにならないこと。そしてそのためには、内容をしっかり理解する努力を怠らないこと、これだと思います。

ムキになるという行為の裏には、バカにするなよという見栄や気負いがありますが、こんなものは、日々の努力に裏打ちされた自信や余裕を身につければなくなるんですよ。それを怠り、生徒相手に「俺は賢いんだぞ！」なんて鼻息荒くして、無駄なカタカナ語をちりばめて自爆する自分の姿は、カッコ悪すぎ。やるべきことをやらずに自分をよく見せたいだなんて、完全に努力の方向性を誤ってますね。

あと、生徒の評価を気にしすぎないことも、こういう心理の予防には必要です。私も以前、こんなことがありました。すごくわかりやすい会心の説明ができた時、ある生徒から「先生の授業はカッコいい言葉を全然使わないから、レベルが低い」と言われ（マジです）、別の生徒から「先生の授業はカッコいい言葉なしでわからせるなんて、レベルが高い」と言われたんです。

こういう場合、どう解釈するのが正解か？— ずばり「耳ざわりのいい方だけ採用！」です。自分の説明が万全なら、ネガティブな評価なんか気にしちゃダメ。そういうのもムキになる要因なんですから。

もう1つよくやるミスは、易しいことを教えているはずなのに、うまく伝わらないってやつです。この場合考えられる原因は、易しくしているつもりが、まだレベルを下げきれていないか、または具体例がうまく示せずイメージが追いつかないってことが多いようです。これは生徒の反応ですぐ気づけますので、その場合はすぐに講義ノートを修正して、次のクラスに反映させるようにしています。

2. どうすればうまく教えられるようになるか

うまく教えるという行為は、決して自分一人で築き上げられるものではありません。だって自分ではうまく教えているつもりが、気づいてみれば何光年も先に生徒を置き去りに…なんてよくありますもん。特に政経には、時事問題というやっかいな分野があります。時事問題は、扱うテーマが新しすぎて「この単元はこう教える」みたいな方法論が確立していないため、手探りの見切り発車で教えざるをえません。そうすると、どうしても独りよがりになりがちです。

では、独りよがりにならないためには、何が必要か？— 私は生徒の反応を参考にするようにしています。この場合参考にする生徒は、できる子・できない子という基準ではなく、「表情の反応のいい子」です。ほら、喜怒哀楽がはっきり顔に出る子っていないじゃないですか。そういう子の表情を見れば、自分の授業がうまく伝わっているかどうかはよくわかります。だから何かしゃべるたびにその子の表情をチェックしていれば、自分の説明のどの言葉やどのつなぎ方が伝わりにくいかは、かなりわかります。それを参考に次の授業で微調整を行っていけば、かなり独善はなくせるものです。

本当は理想論でいえば、最初の授業から独善はなくしたいものですが、経験的にそれが難しいことはよくわかっています。ならば、いざ独善に陥ったらすぐに鎮火できるシステムを構築していきましょう。これって国連の集団安全保障(=平和の敵に集団制裁)と似てますね。あれも紛争を未然に防ぐというよりは、起こった紛争を瞬時に止めるシステムじゃないですか。同じようなものですよ。ただし当然のことながら、普段から独善をなくすべく最大限の努力をすることも怠らないこと。これもまた、国連の平和構築と同じ姿勢です。

ただし、生徒の反応を参考にしたいと思うなら、決して教壇上で孤立しちゃダメですよ。「壇上でカゲヤマが何かしゃべってるぞ」みたいな冷え切った教室では、反応のいい子は凍死しちゃいます。その場合はまず前の方に座っている生徒たちに目を合わせ、授業に強制的に巻き込んじゃいましょう。そして、彼らのうちから反応のいい子が出てくればしめたもの。それが独善を解消するばかりか、教え手の心の余裕にもつながり、結果的にゆとりのある授業につながっていきます。大丈夫、教室内でワルの一団が「カゲヤマを無視しようぜ」とか言っていない限り、どんな雰囲気重いクラスでも、生徒の心は必ず開かれますよ。先生方、頑張ってください。

3. 受験を意識した授業をするのはいいことなのか

勉強は受験だけを考えてやるもんじゃありません。特に政経は、これから先大人として生きていくための社会常識を身につけるといふ側面が強いだけに、なおさら型にはまった受験指導にはなじみにくい科目です。

でも、受験を意識することは必要です。だって、授業を受けている生徒にとっては、はるか先の人生よりも当面の受験の方がずっと現実的な問題なのですから。

そんな中、教え手が受験を完全に放棄したような授業をするんじゃ、生徒がかわいそうです。今はこんな時代だからこそ、どんなに勉強の苦手な子にも、大学受験という選択肢は残してあげるべきです。だから最低限、センター試験には対応できる単元構成で指導していきましょう。



4. 最後に

公民科目は、常に与えられる授業時間が少ないという制約との闘いです。代ゼミだって、センター政経には週1コマしかくれません。でもそこで「時間がないからしょうがないよ」と開き直っちゃダメです。ないならないで、プリントを準備するなり、板書を工夫するなり、やれることはいっぱいあります。私の場合、時間が少なくプリントも使えないクラスでは、各単元の骨組みと最小限の知識だけ板書し、残りは「〇〇資料集の何ページ左上段を見よ」みたいな指示だけ出したりしています。これは手抜きじゃなく工夫ですから、てきぱきとテンポよく指示を出せばちゃんと得点力も向上し、これでクレームが来るなんてことはありません。

でもやはり、こんな無味乾燥な授業だけじゃつまらないですよ。これじゃせつかくの面白い科目が台無しです。だから時間と闘いつつも、可能な限り生徒たちの興味をひく話もしてあげてください。

私は生徒たちが、私の話す授業内容や雑談や裏話を、目を輝かせて聴いてくれる瞬間が大好きです。そして政経を好きになってくれた生徒が、「センターで90点超えました！」と報告してくれる瞬間も大好きです。なかなか他科目の人にはわかってもらえない苦勞の多い科目ですが、先生方もそんな瞬間のために、私と一緒に今後も政経という科目を模索していきましょう。